

会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 22 年 12 月 20 日(月)	開催時刻	13 時 30 分から 16 時 00 分
会議名	上田中央地域協議会(平成 22 年度第 9 回)		
出席者	小林会長、宮本副会長、浅井委員、飯島委員、伊藤委員、河田委員、神林委員、栗内委員、佐藤浩委員、佐藤智恵子委員、塩入委員、中村委員、松澤委員、宮坂委員、宮島委員、村上委員、安井委員、山田委員、渡邊委員 (欠席委員)久保田委員 (事務局)足立まちづくり協働課地域振興政策幹、 林まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査		
会議次第			
1 開会(足立まちづくり協働課地域振興政策幹)			
2 会長あいさつ			
地域まちづくり方針の見直しについて、諮問を受けグループごとに検討をいただいているが、我々の検討と平行して進められている総合計画審議会がある。そこで、平成 24 年度から 4 年間の総合計画後期基本計画の検討を進めていく中で、後期計画の策定に関しては、前期基本計画を踏まえること、まちづくりの方向性を示す長期基本構想は変更しないこと、という確認をした。しかし、地域まちづくり方針の見直しについては、現行のまちづくり方針の策定時とは大きく様変わりをしている。社会情勢が大きく変化している中で、基本的に変えざるを得ない部分は手直しをし、まちづくり方針以外の部分については、協議会独自の審議事項として検討し、こちらは時間的に来年いっぱいあるので、そこに独自検討案を作り、検討していこうと思う。よろしく願いたい。			
3 会議事項			
(1)「地域まちづくり方針」の見直しの検討について			
○各分科会から、前回の検討結果について報告			
【Aグループ】			
(テーマ) 新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化			
産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興			
リーダー： に関しては、駅前のイトーヨーカドーが来年閉店ということもあり、現状について修正の必要があるかどうか等再確認をしている。			
また、市の教育に関する話であるが、上田市の教育行政を考える会の委員も協議			

会に数名いらっしゃるので、いろいろご議論をいただけるかと思う。小中一貫、小中併設、いろいろな文言があるが、そういうものについても前回、分科会の中で話をさせていただいた。大きなテーマなので、協議会全体で検討をしていただけたらありがたい。

【主な意見等】

会長： に関しては、情勢変化ということもあるので、それを踏まえた文言に変えていく、細くする部分もあるかと思うが、その方向で行きたいという説明だった。

については特段の意見はなかった。そのまま継続をしていくのか。

Aグループ：若干の文言が入ってくるというご理解をいただければと思う。

会長：新たな項目の追加ということで、清明小学校と第二中学校の一環教育という問題について、今後の全体会で諮っていくということでいいか。

委員：清明小学校と第二中学校を併設した小中一貫教育の取組について新たな項目に追加したい。ということにびっくりしたが、 と とは別に項目を設けるという解釈でよろしいか。

Aグループ：後期基本計画の中にそれに類するものがないのが 1 つ。本来は学校という部類で考えなくてはいけない部分が基本前提としてあるが、一部の話の中では、上田市の中心商店街と上田市の観光のメインであるお城の誘導策の観点から、現在、大規模改修・建替えの方向にある第二中学校に対して、他に使えるかどうか。という観点からお話のある方もいる。

委員：この問題を後期基本計画に盛り込むのはたいへん危険だと思う。

Aグループ：中央地域協議会として委員の任期が 1 年強あるので、その中でご議論いただければと思う。

委員：教育行政ということになると、中央地域協議会でやるものと、そうではないものに分かれると思う。これは教育委員会部局にお任せするべきだと思う。小中一貫教育と小中一貫校とは別のものなので、そこをはっきりさせないといけないが、教育の観点から小中一貫校をすべきだという意見と、中心市街地のまちづくりの配置の面から、敷地的に一緒にしようという意見は、全く違う観点から話し合われると思うので、危険性が伴うと思う。まずは子どものためということが第一にあってから話をしないとかみ合わない。そこはきちんと分けて議論すべきだ。

Aグループ：今の意見は充分にわかる。それを踏まえた中で、今後の方向性を議論していただければと思う。

会長：3月までのまちづくり方針の答申には入れない。別のステージで検討する。中心市街地・まちづくりの部分も絡んでいるので、中央地域協議会の議題として検討させていただく。

【Bグループ】

(テーマ) 歴史的な資源を保全・活用したまちづくり
市民や来訪者が安心して行き交うまちづくり
自然環境の保全と共生によるまちづくり

リーダー：今回は について討議した。文言が「まちづくりと観光振興を図ります。」という形で閉められている。これについて委員から異論があり、歴史的遺産について「観光」という観点を引き離し、住民を主体とした考え方に直そうではないかという話が大勢を占めた。タイトルと文章から、観光振興の言葉を取り、遺産と融合調和を図るまちづくりという形にしたい。後段のほうに、歴史的遺産というべき旧町名がある。皆さんも旧町名を使って話をされていると思う。活かす方法はないか。以前に検討された方もいらっしゃるようなので、お聞きしながら、文言に取り入れることが出来るかどうか検討しようということになった。

【主な質疑等】

会長：長年検討されてきたことは紛れもない事実だ。根本的に住居表示まで変えるのは、手間隙や経費の掛かることなので、それに替わるべき方向をご提案していきたいと思う。

委員：以前は自治会名を使って生活していたわけで、今も住居表示のほかに自治会もそのままだ。それを使って生活していけば何も以前と変わらない。以前、市で住所表示について検討した当時も海野町や原町や大手町の名前を残すという案があった。しかし、審議会で協議の結果、現在のような表示になってしまった。

委員：郵便局等の行政の効率化の関係だと思う。城下町としての地名を、あちこちに表示をするだけで違うと思う。復古だとか懐古ということでなく、そのような地名をどう残し、どう活かしていくか、という観点から考えていくことが必要だ。歴史に由来した町ということ、小さな子供まで知らせるには、どのようにしていったらいいか考えるのもひとつの方向だと思う。

委員：例えば中央 2 丁目を海野町に替えるだけなら簡単にできる。だが、区切りがはっきりしない。

Bグループ：由緒ある名前というのは、歴史的資源である。これをすべて無くしては、城下町としての遺産が無くなってしまい寂しい。皆が理解できるようにしようではないかという話だ。

委員：私は観光ボランティアをやっているが、ご案内するときには旧町名でお話をしている。ロマンウォークではすべて旧町名で示されているし、みんなが目を向けていく努力をしていくこと、それが歴史的な城下町を作っていくことになる。

最初の説明で、観光振興はひとまず切り離し、具体的に住民を中心にしたまちづくりにしたいとあるが、どういう方向かご説明をお願いしたい。

Bグループ：上田城址公園等の歴史遺産以外に、各自治会単位で埋もれている歴史遺産もある。伝統行事も観光としてではなく、人とのつながりが薄くなっている現状に対し、伝統文化や歴史遺産を活用しながら、地域住民のコミュニケーションを活発にして欲しい。そういったことを中心にしたまちづくりを住民の側でという表現で考えている。

委員：私は違う意見であるが、観光から切り離す必要はないと思う。

委員：「こうした資源を活用したまちづくりと観光振興を図ります」という資源という言葉が問題になった。観光のものを利用してお金を稼ごうというようなニュアンスが感じられてしまう。否定するものではないが、行政の文章としてもう少し、理想を掲げたい。住民が、上田の古い文化にとけ込んで暮らしているということがあって、後から観光がついてくるものだということに考えようということだ。

委員：歴史を活かしたまちづくりをするならば、あちこちに旧町名や説明文のある標識を立てれば、皆にわかってもらえていいと思う。

【Cグループ】

(テーマ) 保健福祉活動拠点の整備と人的資源の活用

地域コミュニティを中心とした協働による地域を誇れるまちづくり

リーダー： 前は医療問題について、特に長野病院の問題について話した。医師の数も今は以前の半分になってしまっている。上田市では、4年間で22億5千万円の基金を使って研修医制度を導入するが、今後の見通しはどうか。上田市の産院が長野病院の隣に移設が決定している。産院との連携はどのようになっているのか。特別養護老人ホームの整備状況について、高齢化が進み老人ホームに入るのにだいぶ待たなくてはならないという話を聞いている。早急にこの問題を扱っていかないと大変なことになる。

【主な質疑等】

会長：これを文言として形にまとめるのはこれからですね。

Cグループ：これからです。

委員：これは全市的な課題で、総合計画の中に健康福祉部というのがあり、そことの関係性がどうか。地域まちづくり方針としての載せ方を検討していく必要があるのではないか。上田市は地域の住民が強すぎるのでは、という意見が出ているようだが、地域の住民の何が強いのかよくわからない。

Cグループ：口伝いは大きな問題だと思う。長野病院はだめだというような風評がいけないのではないか。

委員：地域住民一人ひとりが守り立てながら充実をさせていきましょうというニュアンスがあればいいことだと思う。

会長：全国の医療関係に関して詳しい方も委員の中にいるので、適切なアドバイスを
お願いしたい。

委員：長野病院では、院長先生が中心になり、ヒューマンエラーがなぜ起きたのか、
根本原因の究明や対策を具体的に示して欲しい。

委員：長野病院でもそれはやっている。具体的に見えるかどうかは、市民全体にいき
わたるかどうかは別だが、体質改善をやっている。だめだと思って見ていくと話は
終わってしまう。

会長：中央地域内にある病院なので、盛り上げていかななくてはいけないという前提で
考えていきたい。その中で、院長先生をお招きしてご意見を聞いたり、こちらの意
見を述べたりという形で、これも大事なきっかけだと思うので、よろしく願いま
いたい。

委員：長野病院の諮問委員会に出ているが、市議員の方が出ており、たいへんいい
話がある。今までの考え方を変えて欲しいということを盛んに言っていた。体制的
にも研修センターを作ったりしてきているので、一時のようなイメージでなく、新
しい目で見て欲しい。

会長：いいお話を出来るだけ広めていくということを心がけていきたい。

(2) その他

4 連絡事項等

次回会議開催について

平成 23 年 1 月 27 日（木） 開催予定

平成 23 年 2 月 21 日（月） 開催予定

～ 各分科会協議 ～

閉 会